

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	白船 睦洋
主な担当科目	バンドアンサンブル①,ポピュラーアンサンブル①,ポピュラー演奏法②,音楽教養表現Ⅱ,実技グループレッスン[インストゥルメンツⅡ②]
シラバス	ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。) ※画面下「シラバス」>「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック
2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	全ての授業・レッスンにおいて個々とのコミュニケーション図り、学生それぞれ々への的確な指導とアドバイス等を行う。個人レッスンではより深いコミュニケーションを図りつつ、ディスカッションを繰り返し実技状況やレベルに応じた指導を手厚く行う。特に複数学生で行われるアンサンブル授業等においては、全体指導だけでなく、個別の指導と対応を行なう。受け身の学生が多く、指導者に対して常に指導やフィードバックを求めており、より一層丁寧な目を配った指導で臨む。
2023年の教育に関する自己評価	個人レッスンでは個々の状況に合わせた指導を行うことができた。アンサンブル授業では授業中に個々への指導やフィードバックを行うことができた。複数人数の副科実技ベースレッスンでもスキルの差による授業進行を感じさせぬよう指導を行うことができた。また、座学授業においてはコミュニケーションをうまく取り、複数教員との連携も良く取れた。全授業・レッスンでの成果を得ることができた。(実技スキルの向上、アンサンブル能力の向上、音楽教コンサート成功等)
2023年のFD活動に関する自己評価	FD活動は積極的に行なった。2022年度FD研修会(3月)、大学全体のFD合同研修会(4月、9月)への出席、FD・SD合同研修会(7月)への出席。4月、8月の2回のジャズポピュラーFD研修を主導的に進行し教育内容の検討や意見交換、改善策の検討を非常勤講師と協力し組織的な取り組みを行った。他にも、音楽教養の学内組織FD(7月、12月)、作曲の学内組織FD研修会(9月)等全て出席し検討を行った。全FDにおいて積極的に取り組んだ。
授業改善のために取り入れた研修内容	多様な背景を持つ学生～学力や文化、言語の違いにどう対応すべきか。特にFD研修で多くの教員から取り上げられる「留学生、日本人学生の交流とコミュニケーションについて」である。本年度は留学生の人数も増減したこともあり、留学生へどう対応すべきかに関しては改善のため大変参考となった。特に言語の問題やコミュニケーションの取り方など多くの工夫などは取り入れた。また、コロナ渦を経て精神的な悩みを抱える学生も多く、その対処法も参考となった。

2023 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1642 教員名:白船 睦洋

1)アンケート結果に対する所見

「バンドアンサンブル①、ポピュラーアンサンブル①」に関しては良い結果と言えよう。毎年アンサンブル授業に関しては毎年学生への対応やフィードバック、コミュニケーションなどを改善、工夫をしてきている。学生の雰囲気にも依るということもあるが、まずは良いコミュニケーションと指導ができていると実感している。それが結果として出ていると考える。特に自由表記では顕著たる結果であろう。「あまり思わない」の回答が0ポイントであったことも結果としての評価であろう。

【複数教員科目】

「リズムトレーニング」半期科目 15 コマ中2コマの担当:5名の担当教員がそれぞれ工夫をしてシラバスにも内容を明記し行っているが、やはりシラバスを読んでいない、予習・復習をしていない、出席状況などの回答に関しては学生個々に依るものであろう。

「卒業研究 音楽教養」に関しては最終の研究発表の採点のみのため何とも言えない。

「音楽教養表現Ⅱ」は2名の担当教員の授業。音楽教養コンサートへ向かう授業だが、コミュニケーションもよく取れており、概ね良い結果であると思う。出席に関しては良くない学生もあるが個人に依るものである。また予習・復習に関しては度も授業でも良くないという回答が多い。「コンテンポラリーミュージック・スタディ特別演習」大学院の授業で、複数教員が担当の授業。3コマを担当しており、こちらの授業はコースでも重要な授業であるため回答も良い結果が出ている。

2)要望への対応・改善方策

「バンドアンサンブル①、ポピュラーアンサンブル①」への要望は特になし。

「リズムトレーニング」、月曜日 1 限目は目覚めが悪いとの意見があった。出席も良くないため2024 年度からは2 限目から開始とした。

「卒業研究 音楽教養」「音楽教養表現Ⅱ」「コンテンポラリーミュージック・スタディ特別演習」は共に要望は特になし。

3)今後の課題

まず、どの授業もシラバスを読んで置いてほしいが、これに関しては大学から事前に学生への指導が必要である。

また、授業に対しいかに興味を持たせるかが重要である。何らかの仕掛けや工夫がないとなかなかついてこない。予習や復習も、それをしなければならぬような何かが必要であろう。しかし復習しないがため、授業についてこれないようでは置いていかれる学生が多々出てしまいそれも難しい。授業外学習があって単位が認定されることをもっと周知させる必要もある。しかし、この多様性のある学生が多い状況では一律教育は難しいため、やはりいかに個々への対応する授業展開ということも考慮しながら進めていかなくてはならない。

【担当外科目】

「スタジオレコーディング①前期 A.」「ポピュラーアンサンブル③」「音楽教養演習Ⅰ」

以 上